



# 生涯学習 マナビイ通信



名取市内外の子供からお年寄りまで、幅広く人気を誇る「えっぐおじさん」。今回は、講座の様子を覗いたり、えっぐクラフトへの変わらぬ思いを伺ってきました♪



自分の趣味が  
人の役に立つことほど  
嬉しいことはないです！

## マナビイ宅配便登録講師 きくち かつぞう 菊地 克三先生



菊地先生は名取市をはじめ全国各地で、たまごの殻に絵を描いた工作品、えっぐクラフトのつくり方を教えています。  
木の温もりに包まれた明るいアトリエで、えっぐクラフトづくりが始まりました。正月前であつたため、たまごの殻に描いたのは、門松や今年の干支、うさぎ。  
菊地先生は、絵柄の配置や配色などを席を回りながら伝えます。「いいあんばいだねえ。」「素敵だねえ。」と声をかけ、会話の中に優しさがあふれます。  
皆さんは、穏やかで温かな雰囲気の中で、和気あいあいと作品づくりに取り組んでいました。

菊地先生の講座の様子に密着

### 講師の先生からの メッセージ

えっぐクラフトを初めて制作したのは、中学二年生の時でした。作品展に出展したところ、金賞を受賞しました。母がとても喜んで、隣近所に自慢している姿が印象的でした。その時から今までずっと作り続けています。  
えっぐクラフトとの出会いがきっかけで、誰にでも生まれ持った特技があるのではと思うようになりました。その特技でさらに人を喜ばせたら、自分も心から喜ぶことができます。  
人生は順調なことだけではありませんが、たまごの丸みでほっこり、癒されてください。



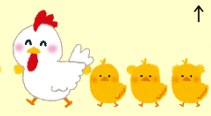
「かつては個展を開いていた。今では、皆さんと一緒に制作し、一緒に展覧会に出展している。この方がはるかに楽しい！」（菊地先生）

生徒さんがダチョウのたまごの殻で作品を制作していた時のこと。半分くらい描き終えたところで、誤って作品を床に落とし割ってしまったそうです。一カ月後、教室を訪れると、壊れてしまったはずの作品が見事に丸くつなぎ合わせられ、修復されていたそうです。菊地先生がボンドでかけらを一つ一つ繋ぎ合わせ、ひびが入った部分には、木の枝を描いて目立たないようにし、蘇らせていたのです。

先生のだまごへの愛情、生徒さんへの愛情を感じるエピソードです。



↑これが一度割れてしまった作品。よく見ても割れたことがわからないほどです。



今年の干支、うさぎをたまごの殻に描こう！



- ①たまごに鉛筆で下書きをする。
- ②アクリル絵の具で、うさぎのお腹や鼻、髭などを描く。
- ③爪楊枝で目を入れる。
- ④全体にニス塗る。
- ⑤ボンドで耳としっぽをつける。
- ⑥完成！！

約5年ほど前から、月に1回このメンバーで菊地先生のアトリエ教室に通っています！



↑富美子さんは毎年干支の動物を描いた作品を制作し、同窓会で仲間贈っている。

菊地先生はいつも笑顔で褒め上手。生徒の私たちのよいところを見つけてくれます。だから安心して通うことができるんです。これからもずっとやっていきたいです。

たかはし 高橋 ふみこ 富美子さん（高柳）

大量のだまごの殻をこつこつと加工！

たまごの殻は、菊地先生の友達をはじめ、市内から月200個ほど寄付してもらっています。殻の中にウレタンとモルタルを注入し、木でできた土台に貼りつけ、材料をつくっています。



これまで作った作品の中では、ダチョウのだまごの殻にお内裏様とお雛様を描いた作品が印象に残っています。菊地先生は優しいし、作品の下にしくフェルトやトレーなど付属品をくださったりと作品の見せ方にまで気を使ってくれます。毎月の教室が楽しみで、生きがいになっています。

みうら ゆうこ 三浦 優子さん（下余田） お正月に→向けて門松を描いた。



地域学校協働活動での講演の様子



名取第一中学校で、地域に縁のある職業人たちから講演をいただく“キャリアセミナー”が開かれました。講師の一人として、菊地先生が講演し、将来に思いをはせる中学生たちに、熱いメッセージを送りました。



生涯学習課では、市民の皆さんが企画・主催する催しで、講演いただく講師を募集しています。様々な分野で経験豊富な皆さんの講師登録をお待ちしています♪

菊地先生の講座申込を希望する人は、市HPに掲載の申込書を提出または生涯学習課に電話・メールでお問い合わせください。  
 〒981-1224 名取市増田柳田570-2 仙台法務局名取出張所2階 生涯学習課  
 ☎022-724-7173 Mail:syogaku@city.natori.miyagi.jp



申込ページに→簡単アクセス☆